

マメ 新聞

マメな取り組みマジメに伝える

2017.04
創刊号

金沢大学 シャトルバス マメバスの 協力が決定



2017年4月5日。金沢大学内の一室には、学長はじめ、理事など数名と、のうか不動産の役員らの姿がありました。マメバスを金沢大学のキャンパス間シャトルバスとして運行するための業務提携契約を結ぶためです。契約に至る経緯や運行の狙いをまとめました。

きっかけは、ある冬の日に

雪が降る日の朝。民間のバス会社のバス停には多くの学生が長蛇の列を作ります。そんな彼らの前をバスが通過していくことは少なくありません。悪天候に見舞われた朝はバスを利用する学生が普段より多く、乗車定員を超えてしまうことがよくあるのです。のうか不動産代表取締役苗加充彦は、この様子があると目にし、すぐに無料バスの運行を決断しました。関係各所との折衝など、紆余曲折を経ながら、2011年12月に1号車の運行を開始。80人乗りの中古バスを購入し、運転手は外注するというスタイルとしました。サービス開始当初から多くの学生に支持され、あっという間にマメバスはのうか不動産の代名詞ともいえる存在となりました。2016年10月には2号車を投入し、金沢大学角間キャンパス近辺のすべてのエリアをカバーできるようになりました。

金沢大学が抱えていた悩み

あれから5年数ヶ月後の2017年3月。思いがけずマメバスが新たな役割を担うきっかけがありました。金沢大学側から

「マメバスを金大シャトルバスとして運行できないか」と打診があったのです。朝夕の通学時間帯に学生を運んでいるマメバスは、昼間の時間帯は運行せず駐車場待機しています。その空いた時間帯を使って学生や教職員を運んでほしい、というものでした。運行区間は角間キャンパスと宝町・鶴間キャンパスの間です。「本学にとって角間キャンパスと宝町・鶴間キャンパス間の移動は、学生・教職員にとって負担が大きく、長年の懸案事項でした。特に医学類の学生は、曜日によってではありますが、同日に両キャンパスで授業があるときには移動にとっても苦労していました。また、教職員も会議などのためキャンパス間を移動することは多く、自家用車を使用しなければならない状況もありました」金沢大学の施設担当理事である有松氏はこう述べます。キャンパス間の移動は複数キャンパスを持つ大学共通の悩みの種のようなのです。この提案を苗加は快諾。常日頃から彼が抱いていた思いをかたちにするチャンスだと考えたからだと言います。「親元を離れ金沢大学で学んでいる学生の、2人に1人が当社の管理物件で生活していただいています。そのことへの返しの機会

になりますから。本州日本海側を代表する国立大学の運営にわずかでも関わることができることは大変名誉なことです」

たかがバス。されどバス

この日参集した金沢大学、のうか不動産一同の表情は終始晴れやか。なごやかなムードのなか、無事に契約は締結されました。同日中にバス停の設置が完了。運行情報を知らせるウェブページの準備も整い、4月10日の運行開始を待つのみとなりました。「両キャンパス間の移動の負担軽減に加え、両キャンパスを気軽に行き来できることで学生・教職員の活動の場を広げるとともに、コミュニケーションの輪が広がるものと期待します」(有松理事)人の移動が今よりスムーズになれば、いろんなところに良い影響が生まれるのは想像にたやすいですね。ぜひ多くの学生・教職員のみなさんにご利用いただき、金沢大学のますますの飛躍のお役に立てることを切に願っています。



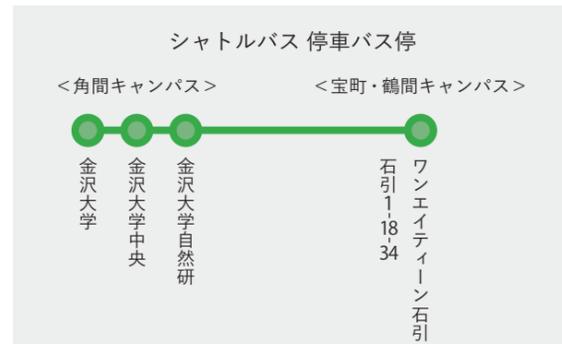
運行状況のお知らせページはこちらからアクセスいただけます



山崎学長(左)と苗加。業務提携契約書面にサインする2人。



無事契約を終えた金沢大学、のうか不動産一同。記念にパチリ。



角間発5便、宝町・鶴間発4便を毎日運行(大学休みの日除く)。

金沢大学学生留学生宿舎「北溟」 管理運営業務をのうか不動産が受託

金沢大学は2023年までに全学生に占める外国人留学生の割合を20%（2,200人）まで引き上げようとしています。文部科学省から、スーパーグローバル大学創成支援（SGU）事業として採択された同校が、テーマとして掲げている「徹底した国際化による、グローバル社会を牽引する人材育成と金沢大学ブランドの確立」を実現するための一環としてです。SGU事業採択後に投入された仕掛けのひとつが、2012年に登場した学生留学生宿舎「先魁（さきがけ）」です。外国人留学生6人と日本人学生2人の合計8人がひとつのユニットで共同生活する混住型（シェアハウスタイプ）の宿舎では、日本人学生が新規渡日留学生のさまざまな生活上のアドバイスを行う「レジデントアドバイザー（RA）」として入居しています。SGU事業採択校かつ、学生数1万人以上の総合大学のうち、留学生が入居できる寮を100%混住型にしているのは金沢大学を含めて4校だけ。国籍の異なる学生同士が共同生活を送るなかで、自然と国際感覚が身につく環境づくりに尽力されています。

はじめて渡日する留学生からは、キャンパス内に設置されていることやRAといっ

しょに生活することの安心感に定評があるほか、RAとして入居する日本人学生からは「日常生活の中で異文化体験やネイティブの語学を学ぶことができる」などと声が寄せられているようで、この寮の運用効果の高さがうかがえます。国際交流の推進・グローバル人材育成の効果は少しずつ見えはじめ、金沢大学から海外へ留学する学生も増えているそうです。2017年4月、これらの効果の伸張を目指し、「先魁」の隣接地に登場したのが学生留学生宿舎「北溟（ほくめい）」です。「先魁」と同様の混住型宿舎で収容人数は200人。これにより金沢大学の学生留学生宿舎の収容能力は約3倍へと増強されました。

このたび、縁あってのうか不動産がこの「北溟」の施設管理業務を受託させていただくこととなりました。「私たちが長年培ってきた本業のノウハウを余すことなく発揮することで、微力ながらも、金沢大学のご発展のお手伝いできたらと切に願っています」（苗加）

当社スタッフにとっても国際感覚を身につけるまたとないチャンスです。部署の垣根をこえて積極的に業務に関わっていききたいと思います。



中央通路からの北溟



テープカットの様子。山崎学長や理事らに並んで苗加もチョキッ。



施設名称看板の除幕式。学生留学生宿舎交流ホール棟の前で。

決めポーズ付き社員紹介 「マメなヒト」



黒竜江省出身。流暢に金沢弁を
あやつる一児のパパ。

張 旗超

CHO KICHO
グローバル営業部

—どんな仕事をしていますか？

学生・社会人問わず、外国人のお客さまのお世話をしています。お部屋さがしはもちろん、生活相談にのることもあります。自身の経験を元にしたアドバイスは好評なようで、電話がよく鳴ります…。

—好きなスポーツは？

いまハマっているのはランニングです。去年のマラソン大会出場をきっかけに、毎日走るようになりました。そのおかげでなんと10キロも痩せました（笑）

—挑戦してみたいことは？

中国にのうか不動産の支店をつくること。渡日前の留学希望者に生の情報を提供して安心してもらいたいです。近々その足がかりをつくってきたいですね。

のうかの北欧料理店とカフェ



贅沢に2人で貸し切れることも

月曜と水曜の夜に限り、完全予約制をはじめてみました。ご友人同士やカップルなど、特別な夜をお過ごしになりたいみなさまのためだけにシェフが腕を振ります。可能な限りご要望にもお応えしますのでお気軽にご相談ください！



新メニューが登場しました

4月1日より新メニューの提供がはじまりました。アイスコーヒーなどの冷たいお飲み物12種とスコーン3種です。オススメはオレンジピールとアーモンドのスコーンとアイスカフェラテの組み合わせ。ぜひ一度お試しください！



のうか不動産
NOKA ESTATE Co., Ltd.

もりの里店 0120-36-3335 〒920-1167 金沢市もりの里2丁目21番地
 小立野店 0120-22-5828 〒920-0935 金沢市石引1丁目7番1号
 金沢駅前店 076-222-3332 〒920-0852 金沢市此花町3番2号 ライブ1ビル2階